

に鎮座し、式内等舊社記に、『國玉神社。須谷村鎮座。今稱『八幡宮』舊社也。』とある。今須谷に八幡神社がある。

クニタヤゴロウ 國田彌五郎 諱は敬武。羽咋郡堀松の人。文政十年生。二十三歳父に襲いで土田組の十村となつた。彌五郎乃ち米町川が年々汎溢して害を興へるを憂へ、藩の許可を得、河身千百七十七間を改修し、又徳田・高濱間の道路を開鑿する等、その功頗る多かつた。彌五郎初め七尾の儒醫安田竹莊に就いて漢籍を學び、又國學を研鑽して平田篤胤に私淑したが、明治六年四十七歳で歿した。

クニツグ 國次 加賀の刀工。國次と切る。眞景の子とも或は弟子ともいふ。應安の頃。又別に同じく國次と切るものがあつて、越前千代鶴一派に屬し、能美郡能美村橋爪に住してゐたにより、その作を橋爪物といはれる。應永前の頃。

クニツネ 國常 加賀の刀工。加州住吉兵衛尉國常と切る。新刀であるが時代不明。

クニトモゼンベエ 國友善兵衛 近江の人で、鐵炮張の鍛冶である。國遊と銘する。前田利常の時加賀へも來た。

クニナガ 國長 鹿島郡笠師の刀工。同村舊神職井田氏の系圖に、元祖今井國長・二代今井重國・三代今井眞元、皆刀鍛冶であつたとある。古刀銘鑑には國長を應永の頃とする。

クニナガウチ 國永氏 ↓クニムラクニナガ 國村國永。  
クニナガテ 國永出 珠洲郡馬縵の内の小字。  
クニノミヤツコ 國造 國造を置いて地方行政を分治せしめることは、遠く神武天皇に

初り、成務天皇之を増置し給ふこと最も多く、雄略・繼體の朝に全く整備したものである。而してその北陸道に屬するものは、若狹國造・角鹿國造・三國國造・江沼國造・賀我國造・加宜國造・能等國造・伊彌頭國造・久比岐國造・高志國造・高志深江國造・佐渡國造の十四を數へ、その中江沼から能等に至るまでは後の加賀・能登二國に關するもので、舊事紀の國造本紀には、各その創置の時代と、國造に任ぜられたものゝ名とを載せてある。併し國造本紀がどの程度に信頼し得べきかは、別個の問題である。

クニヒラ 國平 加賀の刀工。洲崎氏。初代四郎兵衛家平の子二代吉平家平は、正徳中國平と改銘した。賀州住藤原國平又は加州金府住藤原國平と切る。享保十七年二月廿五日歿。二代國平は通稱吉右衛門、初銘家弘。父の歿後國平を襲ぎ、寶曆八年六月三日歿。三代國平は通稱橋藏。加州住國平以則重傳、又は加州住國平造之明和四年二月吉日と切る。安永六年正月十一日歿。四代國平は通稱藤三郎、天保六年十月十八日歿。五代國平は通稱吉郎、加州住國平慶應元年八月日など、切る。慶應三年八月歿。

クニミ 國見 石川郡宮極庄に屬する部落。郷村名義抄に、此の村は山の上に在つて、諸方を見渡すから國見村と名づけたといふ。加賀古跡考には、この村の山に篠田七郎の居館があり、こゝでは國見七郎といふたとある。

クニミ 國見 河北郡俱利伽羅なる手向神社の前から東に向かうて登ると、俱利伽羅山中の第一高地に達する。その頂上を國見と稱する。↓クリカラゴシャゴンゲン 俱利伽羅

五社權現。

クニミツ 國光 加賀の刀工。吉郎國平の子。通稱洲崎幸次。加州住國光、又は加州住陀羅尼國光作之明治二年二月吉日など、切る。大正二年十二月四日歿。

クニミツ 國光 鳳至郡中野郷に屬する部落。この領に米山城のあつた時には戸口が多かつたといひ、その舊家に面屋といふがあつて、代々刀劍の製造を業とした。

クニミノイタヤカヘテ 國見の板谷楓 國見の八幡神社境内に在つて、胸高周圍二米。周圍約九〇厘の藤と、周圍二四厘のつたうるしとが纏絡して、更に壯觀を呈してゐる。

クニミヤマ 國見山 石川郡國見の部落南方にある山。高さ五五七米。地質輝石安山岩。  
クニミヤマ 國見山 鳳至郡浦上の部落北方にある山。高さ二二三米。地質第三紀層。  
クニムケマツリ 平國祭 ↓ヘイコクサイ 平國祭。

クニムラクニナガ 國村國永 金澤の鏡象眼師。通稱次郎作、本姓種村氏。影法を後藤琢乘に學び、寛永中祿五十俵を給せられ、世にその作を次郎作影といふた。子孫次郎作國永・十左衛門國久(同名二代)・與右衛門國廣を経て與右衛門國久に至り、姓を村澤と改めた。國永の門人與三左衛門國安・三右衛門國平・助左衛門國政・八左衛門國長・權右衛門國忠・喜兵衛國光等は、皆師の名によつて國永を氏としてゐる。

クニムラヨシシゲ 國村吉重 金澤の鏡象眼師。國村吉重は國村次郎作國永の弟で、通稱を五郎作といひ、寛永の頃加賀に下り、祿五十俵を賜はつた。吉重繪畫を能くし、象眼の

製作極めて巧妙、世に之を五郎作影といふた。

クニモトヨイチ 國本與市 大聖寺福田町の大工治左衛門の次男であつたが、炮術を好み、天明八年以來丸岡の萩野流師範栗原源左衛門に學び、遂に御徒並となり、嘉永二年十一月八十一歳を以て歿した。

クニンパン 九人橋 金澤九人橋通と胡桃町とを連絡する。昔は双方共に味噌蔵町であつたといふ。藩政時代に惣構堀の江川に架けた橋梁で、橋爪には橋番人の家があつたが、明治廢藩の際之を廢し、橋下を埋めて今は小溝に過ぎぬやうになつた。古へこの橋上を十人が並んで渡る時は、九人のみ影が映じた故この名があるといふが信じられぬ。

クヌグズミ 樺炭 一册。見返しには學木炭とある。七尾の俳人大野長久編。貞徳・貞室・貞恕・梅盛・正由・似船・信徳・言水・如泉・晚山・方山、その他七尾地方の發句が多く載せられてゐる。序文は元祿十三庚辰彌生日落下住晩山。跋は元祿十三辰の年始洗日能州七尾住細流軒長久。京井簡屋庄兵衛拔。

クヌキタニ 榎谷 ↓クニギ 鳳至郡山田郷に屬する部落。

クヌギムラ 榎村 ↓クノギ 此木(鳳至)。  
クノウジュウベエ 久能十兵衛 承應二年前田利常に仕へ、二百五十石を領し、大小將組に列し、御右筆に任ぜられ、寛文四年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

クノウマサナホ 久能政直 通稱千之助・吉太夫。正徳元年父庄右衛門正衝の遺知のうち百二十石を領し、前田吉徳の御部屋附となり、享保九年八十石を加へ、大小將組御右筆に任じた。寶曆三年六十七歳を以て歿。